慈育 SIEG

医療関係者向け
恭青会ニュースレター

2020.12
8号

理事長ご挨拶

師走も半ばを過ぎ何かと心せわしいこの頃です。
コロナがまた勢いを増してきているようですから、これまで以上にお気をつけてお過ごしください。
来る新年が素晴らしいものであるように心よりお祈り致します。

医療法人恭青会
理事長　生野 恭司

新型コロナウイルス感染症と眼科について

一般的にウイルスは結膜などの粘膜から感染するため、新型コロナウイルスも同様に結膜炎を生じる可能性があります。咽頭炎、気道炎を併発しながら、結膜炎として来院することも想定されます。

厄介な場合として、新型コロナウイルスに感染しているにも関わらず無症状の方もいるので、そういった患者様が結膜炎のみを訴えてくる場合もあると思います。

ただ、眼症状から新型コロナウイルス結膜炎を鑑別することは現時点で不可能なため、結膜炎の患者様を診る場合はコロナウイルスの危険を念頭におきながら行わなければいけません。

感染経路はどこからなのか

感染経路は飛沫感染か接触感染です。飛沫感染の場合は、感染者の咳などが目に入ることで移ります。次に、接触感染を防ぐため、患者さんを診察する際は、手袋・マスクはもちろんのこと、接触部位の消毒や診察後の手洗いを必ず実施しています。

しかし、不特定多数の患者様が出入りする眼科外来から100％感染を防ぐことは不可能です。新型コロナウイルスが沈静化するまで、できるだけ不必要な来院を見合わせ、必要な場合は電話再診などで処方を行うのが理想です。

今まで検査に重きを置いてきた日本の医療現場ではとても厳しい状況ですが、それでも患者さんとスタッフを守るためには必要でしょう。

今回の流行はかなり長期に及ぶことが懸念されていますので、今後は新型コロナウイルスの活動性と趨勢をみながら診療体制を合わせていくことになりそうです。

区別と対処法

では、どのように区別してどのように対処すべきでしょう。

新型コロナウイルスでは呼吸困難を伴うことが多いため、熱発と呼吸器症状を見逃さないことです。このような症状がみられる場合はまず、内科等対応可能な施設を受診してもらうことになります。結膜炎でも本疾患が否定できない場合は、診察を通常の診察室では行わず別の区画で行い、感染予防具を装備した限られた人数で診察しましょう。手持ちスリットなどを使い、極力他人との接触を避け短時間で診察します。標準予防法としてマスクだけでも十分とされていますが、加えてフェイスガードかゴーグルを装着して、患者さんにはマスク着用を励行するのが常識的な線でしょう。また診察後の消毒も必要です。

詳しくは日本眼科医会のガイドラインに従います。

ポストコロナに向けた眼科診療について

私が想像する世界、「ポストコロナに向けた眼科診療」についてお話しさせていただきます。

コロナの影響で医療もしかり、社会全体に大きな影響を与えています。今まで政府が本腰を入れなかった遠隔医療分野についても進歩が見られました。

また、セルフ・アイソレーション（自主隔離）など人々の生活様式も大きく変わり、患者さんは受診を控えたり通院頻度を下げるなど、今後の眼科医療も大きく変わると思われます。

以前から遠隔診療は僻地における医師不足への切り札として、推進されておりました。

しかし、医療の収入は出来高払い、かつ検査代の割合が極めて高いため、日本の医療現場は遠隔診療に対して否定的です。

患者さんが来院することで検査を付加していくものですから、遠隔診療によって検査が行われなくなると、患者さん一人当たりの収入が激減するのは目に見えています。今回のコロナ騒ぎにより、世論の趨勢として遠隔診療の導入が叫ばれるでしょうし、医療費削減をもくろむ厚生労働省もこれに乗るでしょう。

複雑な網膜疾患は別として、簡単な結膜炎やドライアイ程度であれば導入される可能性は高いです。

実際の診察はどうなるでしょう。画像診断が大きな割合を占める眼科では、スマホで前眼部を撮影し、インターネットで送ることになるでしょう。最終的には、ある程度の簡単な診断をつける事も可能になると思います。

―― 裏面へ続く ――

医療関係者様限定!

お役立ち情報配信中！

配信予定
- メールマガジン電子版「慈育」：月1回
- ニュースレター「慈育」：3か月に1回

医療関係者様向け 情報配信登録はこちら!

登録フォーム
https://kyoseikai.com/contact_news/
右記QRコードからも登録できます。

※一般の方向けにもメールマガジン電子版「慈恩」・ニュースレター「慈恩」で情報配信を行っています。詳しくは恭青会HPの「患者様向け情報」をご覧ください。

遠隔診療はＡＩとセットにされがちですが、必ずしも同一である必要はなく、画像診断の多い眼科の場合は、様々な画像情報を送るだけで、複雑な仕組みを必要としないかもしれません。無論、これは影響の一つの面を見ただけです。

総じて下降する診療報酬収入をどうするのか？というもっと大きな問題もあります。このように、ポストコロナ時代を想像すると頭の痛い問題が山積していますが、同時に日本の抱えていた医療現場における矛盾を一掃する大きなチャンスととらえることもできます。

コロナ時代の眼科スタッフ教育・勉強会について

いくの眼科では、リモートによる勉強会の開催を決定しました。

症例の画像や情報からその病態について考えたり、診断について勉強する事は、医師だけではなく、スタッフ・ナース・ＯＲＴにおいても重要です。

「患者さんへの説明」「レセプトの対処」「スタッフ同士での患者さん情報の伝達」の信頼性があがり、より的確な患者対応ができるなど利点が山ほどあります。

今後、眼科領域で生計を立て、眼科業界の更なる発展に寄与する為には、病気への関心や患者さんに真摯に向かう姿勢が欠かせません。

いくの眼科勉強会の最初の形式はスタッフからの質問に対して、カルテを見ながら私が答えていました。ただ、それではプレゼンの勉強にもなりませんし、知識が流れてしまい身になりません。予習と論点の整理を兼ねて、質問をスライドプレゼンとし、私も系統疾患をまとめることとしました。こうすることで、以前勉強した内容を復習することもできますし幅広い勉強が可能です。そうこうしているうちに、外部の先生方から、いくの眼科の勉強会に参加したいというお声をいただくようになり、勉強会の原型ができあがりました。千寿製薬株式会社様の共催を得て、十分に距離のとれる貸会議室で行うこともできました。このように我々の勉強会は毎回進化し企業さんがやるような立派な講演会に近づきつつあるように思います。

今まで企業による講演会は山ほどありました。最先端の話を聞くだけでなく、食事もできて、旧交を温めることもできます。一石二鳥、いえ三鳥とも言えました。ただ、私は以前から改善すべき点もあると思っていました。

ひとつ目は営業の要素もあるので取り扱う議題の領域が偏りがちです。ふたつ目は、自戒を含めてですが、講演会の演説回数の多い先生方は同じようなスライドを使いまわして講演をすることがあるため、聴講者にとっては、どこかで聞いた話で新鮮味がないと考えます。

今やウェブやオンラインの講演会は大きな会場や大人数のスタッフを使わなくても可能です。またＭＲさんがいなくても、インターネットやＳＮＳで情報提供が可能です。翻って考えると、講演会の主体は必ずしも企業である必要はなく、我々のような小さなクリニックでも十分可能ということです。つまり我々聴衆側が聞きたい講演会を自らデザインできるようになってきたといえるでしょう。さらに講演会のクオリティーを上げてハイレベルなものにしていきたいと思います。

いくの眼科では理念の徹底や従業員教育に、ＹｏｕＴｕｂｅを活用した映像資料を使用し始めています。デジタル世代の台頭とともに、映像の力と発信力はますます重要なものになるに違いありません。今後さらにいろいろな挑戦を行っていこうと思います。

第6回 いくの眼科勉強会を開催しました。

第6回いくの眼科勉強会が2020年9月24日（木）に開催されました。
新型コロナウイル感染症に関わる状況の急激な変化を鑑み、前回よりもネット環境を更に整備し、リアルとリモート参加の両方に対応したハイブリッド方式で行いました。当院の医師２名とスタッフ９名に加え、他施設から４名、合計１５名がリアル参加。リモートでは２２名で、前回よりも更に多くの先生方にご参加いただきました。今回の勉強会の内容は、①強度近視の乳頭出血症例の鑑別診断と検査法は？②黄斑円孔の円孔閉鎖について違いは何か？③黄斑出血鑑別のこつでした。講義内容は、強度近視眼においての乳頭出血の種類や緑内障との関連について、また黄斑円孔の閉鎖に関してのポイントとなる要素について、それから黄斑出血において近視性CNVや網膜色素上皮剥離との鑑別等、院長より詳しくご解説いただきました。強会を通してより強度近視眼の様々な症例に関しての知識を深めることができました。

いくの眼科勉強会オンデマンド配信！

慈育メルマガのバックナンバーからご覧いただけます。
※リンク先をSNSやネットに上げるのはご遠慮ください。

活動情報はSNSよりご確認いただけます。

Facebook 医療法人恭青会 @kyoseikai.eye.doctor
理事長の活動や院内情報を掲載しています。

Instagram 医療法人恭青会 @kyoseikai
院内の活動を掲載しています。

医療法人恭青会
https://kyoseikai.com/

十三本院 いくの眼科
https://ikuno-eye.com/

武庫之荘分院 あさいアイクリニック
https://asai-eye.com/

2017年3月に医療法人恭青会を設立いたしました。
現在はいくの眼科（十三本院）とあさいアイクリニック（武庫之荘分院）と管理部の３拠点から構成されています。

発行元：〒532-0024　大阪市淀川区十三本町1-14-20　十三日和ビルV 3F　医療法人恭青会　管理部